

私は、もはや新聞や雑誌は必要ない、という意見に賛成である。紙に印刷された新聞雑誌等の長所はほとんどを、インターネットニュースは包括している上、新聞などの短所をも克服している面があるからだ。以下、両者の共通点と相違点をそれぞれ分析していく。

まず共通点について。両者はニュースを読者に提供する情報媒体であり、その情報の真実性に差はない。たしかに、インターネット上の情報は玉石混交で、その批判も存在するが、ニュースの真実性という点では、新聞や雑誌の情報と何ら変わりはないだろう。そして、情報の内容という点では両者の融合はほぼ終了したとさえ言える。また、両者は共に、他企業を資金供給源とし、それらの広告を記事の隣に載せている。この各種企業の宣伝の場という面も両者の共通点と言える。そしてこの面に関しては、インターネットニュースの方が、より鮮やかで目立つ動画を載せられたり、自社ホームページへのリンクを貼

たり出来るので、効率が良いと言える。

次に相違点について。先述のように両者の情報の内容はほとんど同一化されているので、相違点としては新聞や雑誌が実体を持つという点と、こういっていいのである。しかしこの差は実に大きく、私はそれをインターネットニュースに有利だと考える。なぜなら、紙という質量のある実体を持つ新聞、雑誌は、読者に与えて必要のない情報も当然掲載しており、それが必要に知りた情報のスペースを圧迫し読み辛くしている点が良いからである。それに比べて再生紙を使っているように、製造のために多くの費用がかかることも事実である。一方、インターネットニュースでは、いわば無限のスペースが存在し、読者は自分の読みたい記事を集中的に読むことが可能であるし、関連記事のリンクなどをたどることも出来る。また、製造に費用はほとんどかからない。

以上見てきた様に、インターネットニュース

2は、情報、真実性という面で新聞、雑誌と
 同等で、宣伝の効率性、個人のニーズの充足
 性、製造コストの低さという点で新聞、雑誌
 より優れている。ゆえに私は、やはり新聞、
 雑誌は必要だと考えた。